

黒田のぼり店

守り続けること

明治37年創業の店を守り続けているのは、黒田勉さん、健さんの双子の兄弟です。国の伝統的工芸品産業功労者褒賞を受賞し、県えひめ伝統工芸士にも認定されています。

代々受け継いだ手法で、木綿生地に下絵を描き、機械ではなく1つひとつ手染めで制作しています。手染めならではの「ぼかし」が特徴で、機械では出せない味を感じることができます。

下絵で参考になっているのが、2代目の祖父が残した見本です。黒田さんはこれまで、見よう見まねで技術を学んできたと話します。しかし、お客

さんからは、先代との違いなど技術の未熟さを指摘され悔しい思いをしたこともあるそうです。先代と何が違うのか、どうすれば近づけるのかを日々研究し技術を自分のものとしてきました。

約40年間続けてきた今でも、祖父が残した見本を参考にしています。黒田さんは自身のこだわりについて「何ごとにも個性が尊重される時代。その中で、新しいことに取り組むだけではなく、昔ながらの手法を守り続けることが自分の強みとなる」と話してくれました。



▲下絵もすべて手書きします



▲先代が残した見本



▲手染めでぼかししていきます